

# 工事事故防止行動計画 ニュースレター

工事事故「0」を目指して

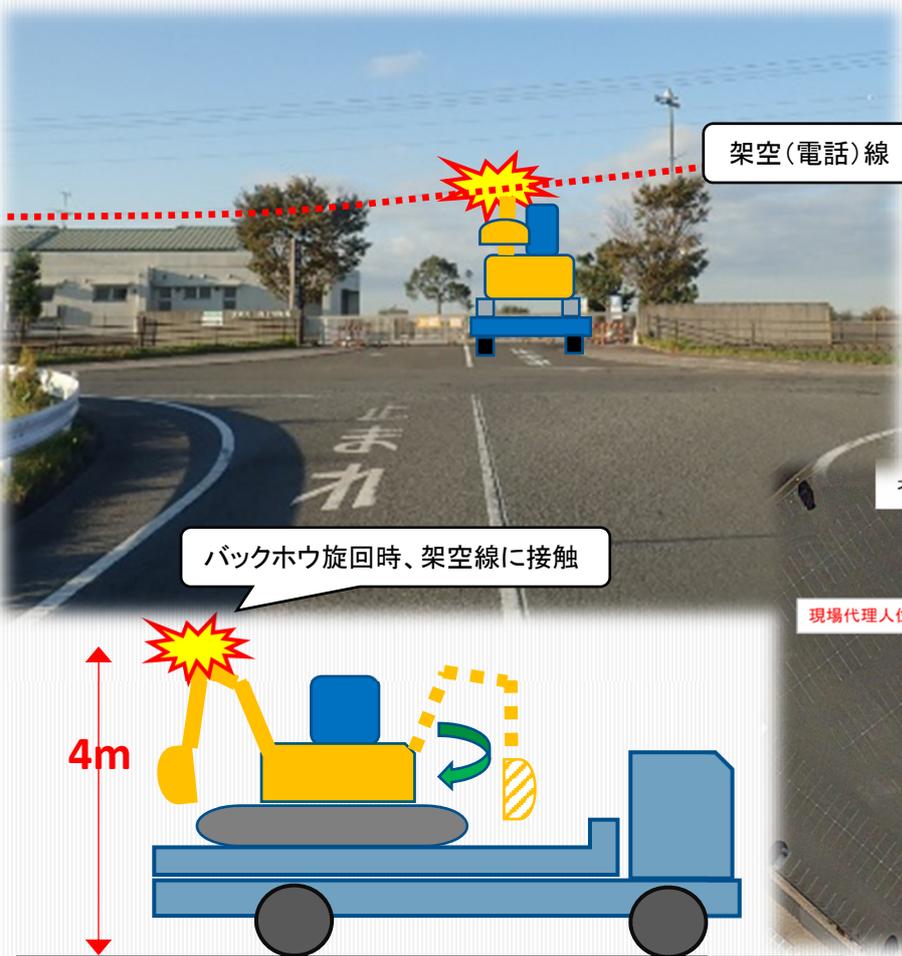
2020.1.9

16号

令和元年11月7日 事故発生

## 【被害】

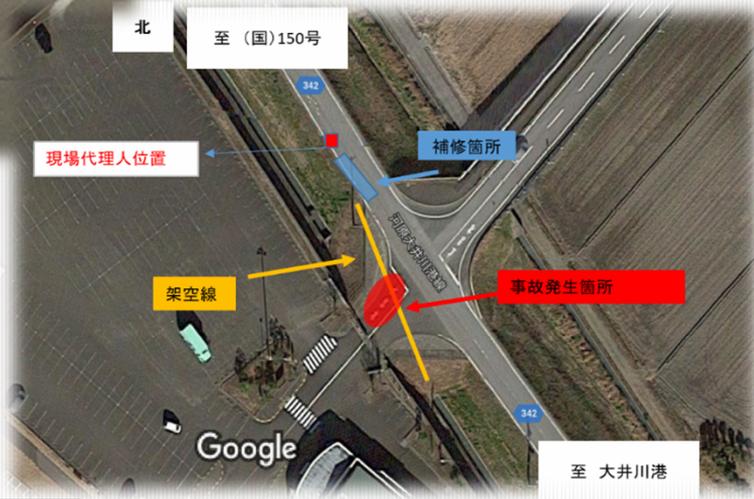
- ・架空(電話)線の垂れ下がり  
(通信に支障なし)  
同日中に仮張上げ完了
- ・復旧まで 「2日間」  
↓
- ・工事中断 「5日間」
- ・公衆損害による「減点」



架空(電話)線

バックホウ回転時、架空線に接触

4m



## 【事故の概要】

- 舗装補修工事現場で、工事完了後にバックホウを運搬車両へ積込時、架空線に接触。  
(工事規制区間外の現道から外れたスペース)
- バックホウ運転手は、自走して運搬車両後方の斜路から前向きに運搬車両に乗せた。
- 降りるときのために、運搬車の荷台上でバックホウを後ろ向きに回転した時に、アームと架空線が接触。
- 現場代理人は、近くの舗装復旧現場の後片付けをしていて、重機の積込み作業を見ていなかった。
- 現場代理人は、普段から架空線等に注意していたが、バックホウ運転手が見張員がいない状態で、作業を行ってしまった。

## 【再発防止策】

- 現場着工前に本工事だけではなく準備片付け段階の重機の搬出入まで見込んで架空線等の調査を行い、影響範囲の明示・周知等を行う。
- 重機の積込み・積下し時は見張員を配置する。
- 重機の積込み・積下しは工事規制区間内で行う。

交通基盤部 土木工事 事故発生件数	事故分類	工事関係者(傷害)	第三者(傷害)	第三者(物損)	工事事故合計	令和元年 12月末現在 (前年同期)
	件数	1件(1)	0件(2)	20件(27)	21件(30)	

**令和元年12月31日までで「死亡事故ゼロ」1383日を達成しました！**

# 現場の頭上支障物件接触事故防止のための事前確認・対策フロー

## ○作業工程での頭上影響範囲 $h$ の確認

①バックホウ等の搬入・搬出時  
(運搬車荷台高+バックホウ等アーム高)

②日々のバックホウ等の現場への進入・退出時  
(バックホウ等のアーム高)

③バックホウ等アーム最大上げ高

④ダンプのダンプアップ高

⑤施工基面の最大高時の①~④の高さ

⑥ヤード内移動時の③④の高さ

準備・片付時に注意

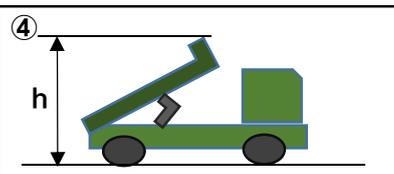
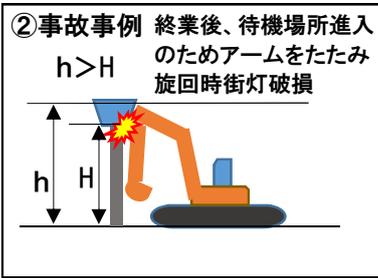
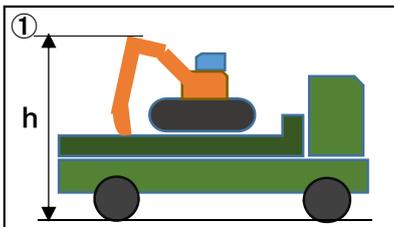
## ○現場の頭上支障物件までの高さ $H$ の調査

### 現場の頭上支障物件の確認

- ・架空線 (複数ある場合は  $H$  が小さいものから配慮！)
- ・街灯
- ・看板、案内標識
- ・橋桁 等

### 頭上支障物件の高さ $H$ の確認

施工基面から頭上支障物件までの高さ  
(施工基面変化時は最大高時を考慮)  
(最大高時:高さ  $H$  最小時) 図⑤参照↓



( $h$ )

( $H$ )

$h \geq H$  今回の架空線までの  $H = 4.0 \text{ m}$

### 頭上支障物件接触事故防止対策

- ①接触影響範囲を明示
  - ・柵やロープ、旗等で周囲と区分
  - ・路面標示
- ②架空線等に防護カバー、旗等をつける
- ③誘導員等を付け頭上支障物件に接触しないよう指示
- ④旋回・アーム引き上げ時、ダンプアップ時等に誘導員等不在の場合にはオペレータやドライバー自らが重機操作前に装置の移動先に支障物件がないことを確認

- ・今回は、①時点での事故であり、本作業ではなく注意や関心の薄れる準備・片付け時に発生。
- ・今回の事故発生時の現場状況下では、④対策を講じるべきであった。
- ・関係者の安全意識の醸成にご配慮いただきたい。

